

# 今日も「一丁あがり」

第21話

お客様の依頼に依りて経験を積むことで  
サービスは日々アップグレードされる！の巻



皆さん、こんにちは！ ニコニコ笑顔でスキップしながら羽田空港から国際農業機械展に向かったものの、霧の影響で帯広空港に着陸できず、群馬へUターンさせられてしまったロブストス高垣でございます。

さて、先ほどアマゾンで中古本の買い物をしていたら、販売業者へのフィードバックページが改良されていることに気付きました。すでに数年前に完成されたサービスと思い込んでいたので、細かいところがアップデートされていることに、親近感を覚えました。だって、その進化の裏側には多くの人の試行錯誤があるってことでももんね。パソコンもソフトウェアも飲食店も、その時点での利用しやすさで判断してしまいがちですが、日々アップグレードされているんだなあと。ロブストスは素人の僕が独学で始めたサービスで、最初はできないことしかありませんでした。現在は4人の会社にならず、今日できなくても明日は必ずで

きるといふ思いを、むしろ創業当時より強く意識して毎日取り組んでいます。僕たちのアップグレードにも関心を持って付き合ってもらえたら嬉しいですよ。ということで、直近で対応した案件をいくつかパパッとご紹介しましょう！

## 約50案件を同時並行で対応

一つ目の依頼は、「中耕作業するためにヤンマー製の手押し管理機YK750RKにカルチ用の幅広爪軸を取り付けたい」とのこと。この管理機は揚土用の機械で駆動シャフトが短いので、手を加えないと取り付けられないんです

ね。爪軸の干渉する部分を金切鋸で切断して、爪軸の幅が短くならないように切断した部分を逆サイドに溶接して、一丁あがり！

続いての案件は、



写真1：カルチ用の幅広爪軸は、隙間がギリギリなので機械を使わず金切鋸で切断。内側の切断部分を外側に溶接して完成！



写真2：アルペゴ製のサイドカッターTL33のネジ山。一見生きてるように見えても、このナメ方だとナットは入らない。慎重にネジを立て直して補修完了！



写真3：「使い勝手はとても良いんだけど、曲がってしまうのが不満」というので、両サイドからリブを溶接して強化！ 鍛冶製品は形状がびつな分、手間がかかる



高垣達郎（たかがき・たつろう）  
1984年アメリカ生まれ、東京都大田区の町工場街で育つ。2011年に株式会社ロブストスを創業し、農林水産業機械のワンオフ対応を軸に、独自のサービスを構築。A-1グランプリ2011グランプリを受賞。群馬県を拠点に、機械メーカー・ディーラー・農協・農業生産法人など、全国的に取引を拡大している。株式会社ロブストス代表取締役社長。

別のお客さまからの「アルペゴ製のサイドカッターTL33のナットが破損したんだけど、メーカー在庫が国内にない……。ネジ径はM60っぽいんだけど、ピッチが微妙で判断が難しい」という相談。アルペゴはイタリアのメーカーなので、ネジの仕様はヨーロッパ標準のミリピッチと想定して、ネジ径M60P2・0のナットを持って現場へ向かいました。ネジサイズは予想どおりだったものの、ネジ山がナメていて絶対に入らないパターン（汗）。ネジ山を立て直すのが最善の策ですが、機械の構造上ミスしたら大工事が確定し

ます。冷や汗をかきながら、特殊工具でとにかく慎重にネジ山を補修して、一丁あがり！

三つ目は、「丸太を転がす大鷲を補強して欲しい」という依頼です。現物を見ると、鍛冶屋の特注品と思われる製品でした。まずはヤスリを当てて熱処理の具合を見て、次にグラインダーで火花を飛ばして材質を確認して、仮溶接して材料の溶け込み具合をチェック。このように諸々確認して溶接できるかを判断します。鍛冶製品の手作り形状に合わせリブをこしらえ、サンダーで微調整して、一丁あがり！

僕らはこのような案件を50件ほど同時並行的に抱えています。やればやるほどノウハウが蓄積され、判断スピードと質が上がっていきます。僕たちも、日々新しい挑戦の機会を得て、熱量高く、より喜ばれるサービスにし続けます。ということ、今日は三丁あがり！